

通常学級調査結果

保護者の調査では、1【学校生活全般】、14【体育健康教育】の項目で高い評価をいただいています。児童生徒の学校生活においておおむね満足していただけていることが分かります。予定どおりの学校活動が難しい部分もありますが、できることを精一杯という考え方で今後も活動を継続していきます。

低い評価となった16【特別支援教育（研修・理解啓発）】、21【区任意の質問（いじめ・不登校）】、24【学校独自（小中学習のつながり）】では、それぞれの項目とも課題が見えてきました。特別支援教育では、インクルーシブ教育を本校の中心として掲げていますので実際に行っている活動や行事などの周知はもちろん、区や都の特別支援教育の情報などもお知らせしていけるようにしていきます。いじめ・不登校では、分からないとの回答が21.5%となっていました。現在は、学期ごとにいじめ調査のアンケートやSCをはじめとした教育相談の充実を図り、いじめの早期発見に努めています。個に応じた対応になっている部分もあり、全体として数字に表れていないとも考えられます。小中学習のつながりでは、各学年の内容の系統性を小中一貫校の強みを生かし、中学部の教員が小学部の授業に参加したり、小中合同の研究会を行ったりしています。まずは教職員が学習のつながりを学び、しっかりと把握できるようにしていきます。

児童生徒の調査では、4【学級経営】、9【学習成果の実感】、11【教材教具（ICT）】、25【学校独自（学習方法）】などの項目で高い評価となっています。4【学級経営】では、学級での生活に満足していることが分かります。日々の学習や行事活動を通して学級内のつながりが深まっていると考えられます。9【学習成果の実感】の高評価に関しては、11【教材教具（ICT）】、25【学校独自（学習方法）】の評価と関連して一人一台のタブレットの活用や学習形態の多様化などが背景にあることが考えられます。

児童生徒と保護者の回答を比較してみると、全体的に児童生徒の方が肯定的に捉えていることが分かります。昨年度と同様、コロナ禍の影響で、保護者の皆様に学校へ来ていただく機会が少なく、どのような教育活動が行われているかが見えづらいということが考えられます。学校便りや学年便り、ホームページなどで周知はしていましたが、今後も教育活動の周知を図っていきけるようにしていきます。

特別支援学級調査結果

全体としてはおおむね高い評価をいただいています。しかし、通常級と同様に特別支援教育の理解啓発や学習の系統的・連続的指導の項目が低い傾向が見られます。加えて、大きく評価が下がっているものでは、13【地域と共に在る学校】があります。本来ならばたくさんある地域行事ですが、コロナ禍の影響を大きく受け、中止が相次いでいることが原因と考えられます。次年度以降の充実に努めます。

特別支援教室調査結果

質問項目は1つですが、小学部では肯定率が90.0%、中学部では100%と高い評価をいただいています。小学部、中学部とも支援教室で学んだことをそれぞれの在籍学級で生かすことができていることが分かります。